

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	2102412
施設名（園名等）	愛育幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然 （木とかかわる、木育探求プログラム）

<テーマの設定理由>

昨年度の木工遊びの活動では、ワークショップ後も作った作品に手を加えたり、繰り返し作品作りを楽しんだりする姿があった。より、木への興味を深め木工遊びを楽しむことを期待して、今年度も去年度と同様のテーマを設定した。また、当園では日々園庭で様々な樹木に触れ、登ったり木の実を拾ったり収穫した果実を食したりしている。今回の植栽ワークショップで自分たちの手で園庭の一部を作る経験を通して、木や草花・木材をより身近に感じ、興味関心を深める機会としたい。

2. 活動スケジュール

① 6月中旬～10月（木工ワークショップ 6/23 実施）

木片、かんな節に触れ、組み合わせて作ることを楽しむ。木片やかんな節の形・感触・香りを感じる。木片やかんな節に触れながらイメージを膨らませ、組み合わせて形を作る。木工活動、友だちとイメージを伝え合いながら作ったり、作品の置き方や周りの装飾等を一緒に考えたりして楽しむ。

② 11月下旬～12月（植栽ワークショップ 11/27 実施）

園庭で、土や苗・丸太・木の皮・ウッドチップ等に触れながら植栽をしたり、ウッドデッキ制作に関わったりしながら、木・木材・植物について知ったり興味を深めたりする。

植栽の世話をしながら、植物の成長を感じる。ウッドデッキやウッドチップのある環境で、木の香りや質感を感じながら遊ぶ。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

2025 年 6 月 23 日

遊戯室に、ブルーシートを敷き、その上に木片を広げ、使いたい木片を選んだり、ポスカで着色したりするコーナーと、木育先生が工具を使って加工するコーナーを設定した。木育先生の話を知ると、木目を見て、木の種類の違いにも気付き、「これとこれは仲間だ」「色が違うね」と、友だちと一緒に見合って比べる様子があった。それぞれ、木片を手に取り、形や木目をよく見て選んでいた。自分のイメージにあった木片を探し、友だちに手伝ってもらう子もいれば、手に取ったものを組み合わせて偶然できた形を喜ぶ子たちもいた。木育先生に自分のイメージを伝え、相談しながら作る姿があった。出来上がったものを子ども同士で嬉しそうに見せあっていた。

2025 年 6 月下旬～7 月上旬

木片を使った製作コーナーを保育室に設定し、好きな時に、やりたい子が製作できるようにした。木育先生と一緒に様々な組み合わせの仕方を考えた経験を活かし、子どもたちだけで工夫して製作していた。ボンドで接着するため、乾くまでに時間がかかるが、その出来上がりも楽しみに待つ姿があった。

木片にポスカで描くと綺麗に発色することに気付いた子がいた。3, 4 人で図鑑を見ながら、木片に深海生物を描き、描いたものを箱に集め、深海の世界を作ることを楽しんだ。加えて虫の世界も作る等、数人の子ども同士でイメージを共有しながら木に親しみ、様々な遊び方を見つけ、楽しむ様子があった。

2025 年 11 月 25 日～

木育先生たちがウッドデッキの改修を行ってくださっていた。その様子を見ていた子どもたちから木育先生に「これは何に使うの?」「どうやってくっつけるの?」と質問をする姿があり、自分たちもそこに加わって園庭を作っていく活動に期待を膨らませる様子があった。

2025 年 11 月 27 日

土づくりから植栽、ウッドデッキに使う木材のペンキ塗りの 2 か所、活動の場を設定した。子どもたちはそれぞれしてみたい活動の場を選び、木育先生の説明を聞いた。土づくりでは、カートやバケツを使い、2・3 人で一組になり協力して、土を花壇まで運んだ。土づくりが終わると、5 人で 1 グループを作り、それぞれ好きな花苗を選んで場所を決め、植えた。先生が教えてくれた花の名前の由来や植え方等を、後から来た友だちのグループに伝える姿があった。

木材のペンキ塗りは、1つの木材につき5・6人で、それぞれ刷毛を使って塗っていった。普段なかなかできないペンキ塗りをした子どもたちは、「(ペンキを塗ると)こんなふうに色変わるよ」と、自分が塗ったところを友だちに見せ合う姿があった。ペンキ塗りが終わったあとは、丸太の皮むきを楽しんだ。つるつると向け、気持ちよさを味わっていた。匂いを嗅ぎ、「いいにおいがする」と木のにおいに癒されている様子があった。剥いた木の皮を友だちと比べ合いっこし、太さや長さに注目したり、手触りを比べたりしている姿もあった。例年に比べて木の皮が剥けやすかったことを、木育先生に教えてもらった。皮を剥きツルツルになった丸太を抱き、匂いや手触りのよさをじっくり味わっている姿があった。

2025年11月28日以降～

花壇の奥側にウッドチップを敷き詰めた。ヒノキのにおいをかいで「お風呂に入ってるみたい」「気持ちがいいね」「あったかい気がする」と話しながら木に親しむ子どもたちの様子があった。

また、植えた花に水をやりながら、生長を気にしたり、「これは僕が植えたんだよ」「ここは迷路みたいにしたいんだよ」等と、友だちや教師に話しながら一緒に見たりする姿がその後もある。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

木や土を触ることを通して、子どもたちが五感を使って、様々な面白さを感じ、自然に癒されている様子があった。年長児になると、遊びの中で知的な考え方になっていく姿があったが、予想がつかない出会いによって、自然の面白さを再発見し、子どもたちの関心が高まっていた。また、2年目になり、木育先生という存在にも親しみをもちながら、活動する様子があった。聞くと必ずアイデアやヒントをもらえる“木の先生”という存在が、子どもたちの発想やイメージを膨らませ、その後の日々の遊びへも繋がっていった。引き続き、活動によって得た子どもたちの発想を大切にしながら遊ぶ機会を大切にしていきたい。